

第11回「トラック輸送における取引環境・労働時間改善
熊本県地方協議会」

日時：令和元年10月28日（月）13：30～
場所：公益社団法人熊本トラック協会 3階会議室

[議事概要]

【事務局：熊本運輸支局 横山 健太】

- ・開会の言葉
- ・配付資料等の確認

【九州運輸局 自動車交通部長：桑島 隆一】

- ・開会挨拶

【熊本学園大学シニア客員教授（協議会座長）：坂本 正】

- ・挨拶
- ・議事進行

○議題1 「トラック運送業界をとりまく最近の情勢と中央における輸送品目別懇談会の検討」

【事務局：九州運輸局 貨物課長 佐々木 庸敏】

- ・「議題1」について「資料1」に基づき説明。
- ・説明後、特段意見等なかったため、「議題2」に進む。

○議題2 「対象輸送分野の課題整理、改善策の検討等」

【事務局：熊本運輸支局 岩本 輝彦】

【事務局：公益社団法人熊本県トラック協会 専務理事 吉住 潔】

- ・「議題2」について「資料2」に基づき説明。
- ・地方協議会でのこれまでの取組みについて岩本より、今年度の取組みである対象輸送分野別品目及びアドバンス事業の選定について吉住専務理事より説明。

【株式会社AZUMA 代表取締役社長：上田 裕子】

【日之出紙器工業株式会社 熊本工場 営業部長代理：下茂 弘之】

- ・引き続き「議題2」について「資料3」に基づき説明。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

ご説明大変ありがとうございました。かなり踏み込んだ改善計画で、関係者の方は大分感じるところがあったのではないかと思います。AZUMAさんのほうで、入口のところで2.5人配車、人を出しており、紙器さんのほうも人を出して、そこで会議をしながらということになると、当然そこにコスト負担がかかっている、経費節減というかその時間の荷待ちの部分を減らすためにコストをかけていると思いますが、そのコスト計算はどのようにになりますか。

【株式会社AZUMA 代表取締役社長：上田 裕子】

コスト計算は、一人あたりの人件費を作業に投入した人間で計算しており、月の日数によっては入れ替わり等でどうしても休みがあったり、工場内の方の高齢的な部分で、辞職されたことによつて当社が一人入れたり等、そういうことで運用をスムーズにしているところがあります。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

お互い情報交換を行って年齢や賃金のことを調整しながら、あまりコストがかからないように効率的にやっておられて、リフトや配置のことは、どちらかというとAZUMAさんのほうがされているので、それに合わせて会社のほうも対応しているという事ですが、一つ問題は4色のところを例えば2色にするとかというのは、製品出荷のところに関わりがあるかと思いますが、納品に合わせて製品のどこを変えていくというのは大変なことだと思いますが、そういった部分はどのように考えますか。

【日之出紙器工業株式会社 熊本工場 営業部長代理：下茂 弘之】

先ほどのコミュニケーションとして納期の順番通りに仕上げる。そういった事は今までありませんでした。材料のロスを考えて、製造しておりましたので、優先順位が製造重視で運転手の待機時間が長く、入れ替えが出来ないか考えておりました。仕上がり時間を重視し配車の順番と納入時間の調整を図りながら、今少しずつですが、上手く行くようになって来ました。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

何か製品を作っているときの順番を納品に合わせて、時間調整をしていると、最初は自分のとこの製品の都合だけで出来たものを取りに来てもらって配送していたので、そのコストがかからなくてすんだと思います。先程、明細がよくわからなかったと言われていた納品伝票の記載事項の詳細化という部分は、かなり詳細にしているので手間がかからずに済んだという事ですが、どのように詳細になっているのですか。

【日之出紙器工業株式会社 熊本工場 営業部長代理：下茂 弘之】

まず、伝票の住所欄がありまして、自宅の住所が字で止まっていたり、荷下ろし情報等を細かく記入したり、荷主さんの個人の携帯番号を入れるようにして、少しでも、待ち時間をなくすということも荷主として努力しているところです。

それと、先ほど一方的ではないですが、輸送コストの部分で、AZUMAさんに効率よくお願いしますという事で、その部分を共有し目標としてお願いしています。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

それは、上田さんの印象では明細が詳細になったことにより、運転手の方達も助かっているということですか。

【株式会社AZUMA 代表取締役社長：上田 裕子】

伝票に関しては、運転手からは事前に探していく等のバタバタがなくなったという事や次の配達先の場所探しの効率がよくなった等と聞いています。ただ、先ほどおっしゃったように、コストに関しては、これくらいまでで止めて、あとの効率を改善してくださいというようなご提案は、定例の3ヶ月毎の改善の中でお互いにコミュニケーションを図りながら取り組んでいます。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

確かに、お互いのところで作っていないと一方的にという訳にはいけないと思います。納品時の付帯作業の改善依頼の中で荷下ろし時の時間が削減されたとの事ですが、この付帯作業の改善の中身というのは具体的にどういうことが一番多いですか。

【日之出紙器工業株式会社 熊本工場 営業部長代理：下茂 弘之】

例えば、納品先によっては、リフトで上げて、運転手が階段で上がって、その上げた荷物を荷下ろしするというようなケースがありましたので、そういった部分をそのままリフトでパレットごと上げられないか等の相談受けていたので、それを荷主さんに提案させていただいて、そのままパレットごと2階に上るように改善が図れたものがあります。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

これまでパレット化していない部分がパレット化していくというのは、荷主さんの協力ができないので、その協力をしてもらっていると考えるとよろしいですね。そこで改善が進んだことにより、運転手さんがリフトで作業していくのはこれも付帯作業になりますが、肉体的に言えばその方がずっと時間的にも労力的にも楽になっているものと考えてよろしいですね。

【日之出紙器工業株式会社 熊本工場 営業部長代理：下茂 弘之】

まだ、段ボールの場合、手下ろしや手積みという部分多くが残っており、パレット納品が出来ないか現在模索中です。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

パレットの規格化がなかなか難しいという話がありますが、今のところは改善しながら進めているという事でよろしいですか。

【日之出紙器工業株式会社 熊本工場 営業部長代理：下茂 弘之】

はい、適宜改善中です。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

かなり具体的な事例が上がってまいりましたので、今までの内容についてご意見、感想等ございましたらお願いします。

【熊本交通運輸株式会社 社長：住永金司】

私どもも数年前、日本でも何番目という規模の段ボールメーカー会社からスムーズな輸送を実施してくれないかとの依頼があり、改善したことがあります。しかし、納品先に行って、下ろして、製函する機械のところまで運ぶという習慣を今までずっとしており、それを打破するというのは非常に難しいことでした。そして、積み込む順番についても、日之出紙器さんが言われたように印刷する順番、配達する順番等が全然違うため、荷物をその辺に無造作に置いてある事が実態としてありました。結局私共はそういった部分がある程度守って頂きたい等の啓蒙についても何回も申し入れましたが、守れないということで、逆に私どもから撤退をいたしました。そういう業界にも関わらず、よく日之出紙器さんがそこまで取り組んでいるなどの思いがあります。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

特に段ボールの場合、物が大きいし業者から見るとそう簡単にいかないという中で、取り扱っている品目を見ると、かなり大変で普通の段ボールの大きな箱というのではなく、段ボールのシートや製品がたくさんあり、紙器さんの場合は様々な製品をどこかで積込んでいるということになるのですか。少しイメージが湧きにくいので、その辺を説明していただけますか。

【日之出紙器工業株式会社 熊本工場 営業部長代理：下茂 弘之】

私どもでは、主に段ボールと紙器も製造しており、この紙器につきましては種々あって、段ボールケースに入れて納品しています。紙そのものですので、比重が大変重く小さなパレット毎で納品するというかたちを取っています。

ロットにつきましても、50～100枚単位のものから、物によってはトラック10トン車2台とか、幅広く対応させていただいています。一番困っているのが、青果物等相場が高いと急に受注が入ったり、選果の都合で朝一納入とかあります。工業製品はある程度1か月前に注文いただきますが、そういった製品は、製造に時間が掛かる製品が多いです。数年前までは、機械化が進み、印刷機のスピードがあがり、製品の仕上がりが早くなっているものですから、メーカーによっては、中2日で出来るとか、物によっては1日あれば納品可能という様にメーカー間の過剰競争していた時期もありました。

一方で私どもも、運送の会社のグループも、ありますので、このままでいくと配送出来なくなる恐れがあると言われていましたので、2年程前からこういった取り組みを始めました。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

お互いにこのままいけば本当に大変だという事態も、大変具体的な改善事例を挙げて頂き、今もそのケース毎によってはロットや箱といった種類が色々違う中で、ニーズがあれば急に増えてきたり等はAZUMAさんのほうで調整をして、10トン車を2台出す等で車両を増やしたりすることで改善を適宜行っているということですね。

【株式会社AZUMA 代表取締役社長：上田 裕子】

そうです。大型車が必要であれば大型車を配車し、車が足りないときは、今申し上げた様に配車しているものが午前中配達に行くと配車をして、昼からもう一度走る事で応急処置をしながら対応しています。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

以上の話はかなり弾力的でお互いの協力関係がないととてもできないことだと思いますし、協議を定期的にされているということで気心も知れているので、連絡をして受けるほうも受けやすいですし、ドライバーさんや配車担当も内容をよく把握しているという事が分かりました。それでは、運送業を管轄している運輸支局に意見を伺いたいと思いますが、今までの話を聞かれて、松野支局長の感想としては如何でしょうか。

【九州運輸局 熊本運輸支局 支局長：松野 完治】

熊本運輸支局の松野でございます。今お話しをいろいろお聞きいたしまして、それぞれ、荷主さん側、そして運送事業者側、色々と細かいところまでコミュニケーションしないとなかなかできない事であると感じましたし、一方的に荷主さんが運んで下さいという事例も多くあるかと思いますが、納品先の時間もありますし、出荷元の製造の時間等、色々と組み合わせるにあたってそこでその最適性をどう求めていくかということも難しい問題であると思います。

また、一方的に荷主側が効果もなく、また様々な問題点等を運送事業者側が提案し、一つずつ潰していき最終的なコストに、経営コストや配送コストといったものを、双方の会社のコストに関わってくるものだと思いますので、そこはこの場ではなかなか言えないせめぎ合いがあると思いますが、やはり企業対企業の経営の中で、とことん話し合いをし、折り合いをつけていくという事例としては非常に参考になると思いました。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

ありがとうございます。それでは、日之出紙器さんのこのままでは大変であるとの話からAZUMAさんとの話し合いの中で、お互い協議しようという導入部分は如何でしたか。

【日之出紙器工業株式会社 熊本工場 営業部長代理：下茂 弘之】

私たちにも、危機感があり、運転手さんの問題もありますし、このままいくと製品ができて運んでいただけないのではないかと危惧しておりました。今までであれば作ったものを持っていただけるのが当然みたいな時期もありましたが、ここ2、3年はなかなかそういった事も厳しくなっており、弊社の運送のグループ会社においてもなかなか運転手さんが集まらない現状がありましたので、余計に危機感を持つこととなりました。

また、私たち営業部からすると安心感から朝一で運んで欲しい等を条件にしておりました。これを一步踏み込んで実際にお客さんと話すと、午前中であれば大丈夫とのお客さんもありましたので、そういったものは一つ一つ潰していきました。それによって少し時間がいただけるようになりました。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

朝一ではなく午前中であればいいということであれば2、3時間余裕ができるため、かなり大きな効果だと思います。

【日之出紙器工業株式会社 熊本工場 営業部長代理：下茂 弘之】

色々と見直しをした中での成果であると思います。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

そこはやはりお客さんとのコミュニケーションをとることも非常に必要になるということですね。

【日之出紙器工業株式会社 熊本工場 営業部長代理：下茂 弘之】

長く取り引きしていると前任の方の取引状況をそのまま引き継いでいるので、実際に聞いてみるという事も大事だと思います。(先入観がありますので)

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

単なる慣習で済ますのではなく、ニーズがどこまでが許容範囲かということですね。

【日之出紙器工業株式会社 熊本工場 営業部長代理：下茂 弘之】

はい、そうです。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

業種は違いますが、本田技研さんはそういう問題は今までありましたか。

【本田技研工業株式会社 熊本製作所 技師：松岡 和弥】

大津町で二輪車等を毎日800台位受け入れている事例がございます。

今、聞かせていただいて一番印象に残ったのが、製造の都合に合わせて生産計画を組んでいたところを配送、積み込みの都合に合わせて、生産計画を組むようにしたという部分が非常に印象に残りました。

我々も、国内輸送や輸出を大量にしておりますので、やはり大量の二輪車等を作るにはどうしても種類が多く、生産都合にしまいます。

ですが、それが配送にロスを生んでいるので、バランスが大切であると改めて思い、今回はとても参考になる話を聞かせていただいて勉強になりました。ありがとうございました。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

実際に実施する事は簡単ではないと思います。

例えば本田技研さんのイメージで結構ですが改善の余地等はあると思いますか。

【本田技研工業株式会社 熊本製作所 技師：松岡 和弥】

我々は、例えば輸出のほうで、コンテナが着くゲートも道具も持っていますし、国内に輸送するトラックが到着するゲートも5、6本持っていますので、その拠点等と生産計画と先程スペースを確保されたという話もありましたが、そういったものを検討していきながら、一番ベストなところを探す余地はあると思います。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

どうもありがとうございます。他に感想等ありましたら、お願いします。

【日本通運株式会社 熊本支店 次長：姫野 崇】

日本通運でございます。

今、日之出紙器様のほうからもお話がありましてとおり、これまでの商取引でも慣習の見直しに踏み込んでいかれたのは本当に良い事例であると思います。

様々な取引をしている中で、私どもも通常であればパレットを用いたリフト作業での納品先へのお届けというものが当たり前の世界においても、昔からのお客様等の条件で手降ろし等、そういった届け先がまだ残っている事も現にあります。

当然、手降ろし料金というものを別途頂いていますが、やはりそういったところも荷主側と色々交渉していかなければいけないと改めて思いました。

【九州産交運輸株式会社 九州南支店長：保崎 洋】

今からパレットを利用する機会も多くなると思いますが、段ボールというものはサイズが多種多様でかなり種類が多いため、それをある程度まとめるとパレットに乗せやすくなり、あとは外枠や化粧についてもいろいろと工夫可能ですので、サイズをなるべく小さくするような動きをしていったほうが良いと思います。

【津埜運輸株式会社 代表取締役：津埜 高則】

私どもは段ボールを運んだことがないのでよくわからない部分もありますが、最初の話聞いた時に、坂本座長と同じように改善に係るコストがどのように両方で負担しているのかという部分が気になりましたが、坂本座長がその話をされたので、そこが一番ためになりました。

【城東運輸倉庫株式会社 常務取締役：井上 淳】

私は本日、代理で社長の代わりに出ておりますが、脅している訳ではないですが、今後は運ぶところはなくなってくると思います。運賃についても私どもも値上げしておりますが、これは荷主さんの荷物を運びたいという思いがあっての事です。

ですので、運びたいからあげさせてくださいという感覚を私どもは持っており、そういった部分で動いていただいたのが恐らく日之出紙器さんであると思います。

こうした感覚のところしか今後は残らないと思っております。運送についてもそれを理解していただくお客さんしか運ぶ事は難しい。私どももここ4年位で8社は運送をやめております。

また、ドライバーも先日、27歳の若い子が入りましたが、2週間位で腰が痛くなり、10日程休んだ後に辞めていった事例があります。そういう状況の中で年齢の高い方が手作業している現状です。

細々となっていくところが現状であると思っておりますので、コストはその時は掛かるかもしれませんが、長く会社を継続するかしないかという部分で、荷主さんのほうも理解していただきたいと考えております。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

ありがとうございました。

城東運輸さんからかなり手厳しい話がありましたが、実際の競争関係の中で、今までの慣行でいえば、協力関係がないところは生き残っていくのが難しいという非常に厳しい状況の中での打開策として、本日実際の事例の提案があった訳ですが、正直なところ、取引環境の改善とか労働の改善という題目だけではすまないと感じたところです。

提案を実施するためには、もう少し協力関係が必要であり、先程踏み込んだ内容に入っていたと思います。

そういう意味では、かなり有意義な議論となり、これが次の議題のアドバンス事業に繋がりますが、時間の制約もございますので、まず事務局より議題の説明後、意見を述べる機会を設けたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。それでは、事務局からお願いいたします。

○議題3 「アドバンス事業」

【熊本交通運輸株式会社 常務取締役：吉川 誠】

- ・「議題3」について「資料4」に基づき説明。
- ・説明後、特段意見等なかったため、「議題4」に進む。

○議題4 「貨物運送業に対する労働時間等の説明」

【熊本労働局 労働基準部監督課 監督課長：吉野 勇希】

- ・「議題4」について「資料5」に基づき説明。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

ご説明大変ありがとうございました。この内容は今説明がありましたように、5年間の猶予の間に説明会を開催して周知徹底するということですので、今日の議題の中でも非常に重要な柱になる部分であると思います。5年後にどの様になるかということは、今日も話がありましたように、きちんと詰めておかないと、今後は大変厳しい状況になりますので、是非、そういった認識をお願いいたしますとの説明であったと思います。

それでは、今までのところで、まだ一つ議題が残っておりますが、そのことも含めて結構ですので、短めに感想等ございましたら、よろしく申し上げます。

【全日本運輸産業労働組合熊本県連合会：山野 雄一郎】

お疲れ様です。労働組合の立場で参加をさせていただいております運輸労連の山野ですが、労働環境がこのように関係各所の皆様に大変なご理解とご協力をいただいていることにつきましては

大変ありがたく思っておりますし、今後もこのような動きが大きく広がることを期待しておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

【株式会社鶴屋百貨店 商品管理部長：水田 竜一】

お世話になっております。鶴屋百貨店の商品管理部長の水田と申します。私どもはいわゆる川下、本当に川下の部分でございまして、今、ご説明がありましたAZUMA様や日之出紙器様の川上とある種、流通化というところが私どもには正直申し上げるとよく見えてない。例えば、段ボールや作業着といったものが、今はある程度弊社の物流センターに貯め込んで出すことをしているの、そこであまり過剰に発注しないという事を私どもも守りながら作業をしています。

それと、パレットサイズの話が何回も出ましたが、弊社は元々パレットを想定しない物流センターでしたが、実際にここ10年位で徐々にパレットに変えてまいりました。

ただ、実際に物がパレットで来るかどうかわからない状態で、パレットを指定しているわけでもなく、パレット使用を否定しているわけでもありませんが、リフトもない状態で対応しているため、これについては改善の余地を今検討しているところですが、リフト等どこまで貢献ができるか今現在検討中です。

【熊本県経済農業協同組合連合会 園芸販売課長：末廣 健】

熊本経済連です。本日の会は非常に参考になりました。本県も農業がまだまだ強いので、非常にパレットに取り組みたい気持ちがありますが、産地環境を考えると非常にまだまだな部分もあり、青果場あたりの整備等、その辺も非常に課題が多く残っております。

また、それに加えて、先ほどの段ボールの話ではないですが、輸送効率化を求めた段ボール製作あたりの提案もしているところですが、それを踏まえて品質のところも非常に重視しなければならないということで、一足飛びにできるものではなく、非常にジレンマを抱えた進め方になっている事が現状です。

この度、農産物のアドバンス事業ということでやらせていただくわけですが、そういった結果を見ながら、産地への提案をしっかりとできるようにしていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

【熊本県中小企業団体中央会 情報調査課長：坂本 浩則】

中央会の坂本と申します。今日はありがとうございました。今、お話をうかがって、例えば附帯作業の部分というのは、荷主側からするとあまり意識していない問題ではないかと感じました。そういったところの意識づけを今後はしていく必要があると思えました。

また、パレットの問題にしても、恐らく日之出紙器さんに関しては、輸送フォームを持っておられるので通常の会社より少し理解がある状態ではないかと思っておりますので、そういったところで一般的な企業さんと折り合いをつけるための良い事例として、AZUMAさんと日之出紙器さんが非常に上手く連携して取り組んでおられるので、我々も企業の連携の支援をしている組織であり、参考にさせていただいてご助力ができればと思っております。

【熊本県商工会議所連合会 専務理事：坂本 浩】

商工会議所です。商工会議所において全国で今非常に言われているのは、まさに人口減少社会における労働力不足ということです。そして、働き方改革という中で、時間外の上限規制も始まるため、ますます人手が足りないというようなそういう状況の中で、それを改善するためには生産性の向上しかないと言われており、製造業とか内部事務でもかなり効率化が進んでいますが、現場のこういった取り組みはどうすれば一番生産性が上がるのか非常に悩ましいところですが、例えば、運送関係でいえば、自動運転が有力であるとの話になってきています。

こういった状況の中で、この取り組みは本当に現実的で、非常に素晴らしい取り組みだと思えました。特に熊本は、物流なしには生きていけない経済なので、特に農作物を中央に出荷していく中で、今後それをどう効率的に人手を確保しながら、あるいは少ない人手の中で効率的に進めていくかというのは非常に熊本の経済にとって大事なことですので、このまま事業を継続頂き成果を出して頂きたいと期待しております。

【株式会社AZUMA 代表取締役社長：上田 裕子】

少し最後に言い残したことがあります。まず一つ目は、確かに日之出紙器さんは以前、当社を含めて3～5年くらい前から運送会社3～4社程で運送していました。

ところが、他の業者さんが高齢化で1社撤退し次も撤退という状況の中で、恐らくこのままではいけないという危機感を持たれた実情がありました。また、当社の引っ越しや様々な構内作業をしている部分で、細かい部分の作業の提供が可能であった事等により、そういった部分のお互いの前向きな姿勢が、こういった改善に取り組めたということです。まずは、日之出紙器さんがそういった状況から前向きに検討していただいたということが一番の背景だと思います。

次に二つ目は、運送する商品を間違えたり等いろいろな日々の業務の失敗がある中、それをまた別の日に反省しながら、ミーティングの中で改善していく事をしているというところです。

本日は、会議内容等が全然わからない状況の中で下茂部長に出席頂き、また、現状を話して頂き、本当にありがとうございました。急な依頼で申し訳なかったのですが、こういう話ができ非常に良かったと思いました。

【日之出紙器工業株式会社 熊本工場 営業部長代理：下茂 弘之】

物流というのがすごく問題になっており、私たちが毎月やっている物流改善以上のものを皆様が話されている事が身に沁みて理解でき、私たちが思っている以上に余裕がない事が現状であると思いました。

今、末端のエンドユーザーさんにつきましては、ある程度理解が進んできていますので、これをもっと進めていきたいと思っています。

【有限会社手野運送店 代表取締役社長：武藤 正幸】

武藤と申します。よろしくお願いします。

少し環境問題の件で検討する必要があると思っています。

荷物のパッケージの件で、トラックに荷積みするとき段ボールが一番の積載効率ですが、配送センターでは段ボールは使い捨てゴミとして処分されています。最近大手配送センターではコンテナの使用が増え、イフコジャパンは今の日本規格に合わせて作ってありますが、サンコーのコンテナは幅400長さ600高さ290で日本規格に上手く入らず、幅で140mmの隙間ができて積載効率が悪いです。

これをクリアするには、日本規格を国際規格に変える必要があると思います。

幅2.6m、長さ12mか13m、高さ4.1mにすると従来の127%に効率アップします。

4台のトラックが3台で収まります。

現在トラックは、大型車総重量25トンで、低床4軸と、後輪2軸の3軸と2種類がありますが、これをタイヤ11R22.5の標準タイプの前2軸後輪2軸の、4輪車で総重量30トンができると後輪2軸の3軸車のフロントタイヤのバーストが大幅に減少し安全にも向上します。

また後輪2軸で2デフも、設定すれば冬の道では威力を発揮し冬の道路凍結にも強くなります。トラックの安定も数段良くなり冷凍車でも積載量が15トン強取れると効率もアップします。ヨーロッパのトラックと日本のトラックを比較すれば一目瞭然効率が悪すぎます。働き方改革と相まって運送コストは高くなります。一例ですが、カーゴ運搬車等の高さ制限は4.1m、ボックスコンテナ海上コンテナ等も4.1mです。なぜトラックだけ3.8mなのでしょう。

また人手不足の対応で、パレットを利用すると作業時間も大幅に短縮できます。日本の規格を国際規格にあげて効率アップを提案させていただきます。

令和2年には、自動運転レベル3で高速道路を走行できるトラックが販売できるといっています。日本のトラックも、いよいよ自動運転の時代に突入です。

運転手の働き方改革はどうなるのでしょうか。ドライバーの負担を軽くして日本の流通改革をしないと食文化が危機的状況になり物流がいつ止まってもおかしくない状態です。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

ご意見等どうもありがとうございました。

それでは最後の議題になりました議題5について、事務局からお願いいたします。

○議題5「食品等の流通合理化」

【九州農政局 経営・事業支援部 食品企業課長：松尾 佳典】

・「議題5」について「資料6」に基づき説明。

【熊本学園大学シニア客員教授：坂本 正】

どうもありがとうございます。少し急がせた感じで申し訳ありませんが、全体としては今までの議論を農水省のほうから全体的に流通合理化についてのご提案とかなり重なる部分があると考えてよろしいですね。

少し話にもありましたが、ヤマト運輸さんにおいては、全体的に言い残したことはございますか。

【ヤマト運輸株式会社 熊本主管支店 副ベース長：古賀 義規】

そうですね、今、単体で考えるというよりは共同でというのを今後考えていかないといけない部分であると思いますので、そういったところで自社だけではなく、協力会社等含めて今後はそういった事に関しても今日のように踏み込んでいかないといけないと思っています。ただ、全国を見ると、そういったかたちでやっているところもありますので、そういったところも見ていきながら、今後も改善していきたいと考えております。

【熊本学園大シニア客員教授：坂本 正】

ありがとうございました。今日は、包括的にかかなり具体例も出てまいりましたし、農水省の最後の話が、印象的に全体の流れで、今ご提案があった話ほどの辺が重なってどの辺がうまくいきそうか、少しその辺の部分を簡単にご説明願います。

【九州農政局 経営・事業支援部 食品企業課長：松尾 佳典】

物流の空輸の部分もまさに今ありましたが、そういった日通さんも含めた物流の全体のシステムを持ってらっしゃるところに、積極的に関わっていただきたいと考えております。

また、今回提案したなかでも商品管理のプラットフォーム、決済プラットフォーム等、これは、実際には全国的なソフトとなるとかなり経費も掛かってくるし、取り組みも難しいと考えております。今日お話にありました、日之出紙器さん、AZUMAさんの取り組みというのは、まさにそういったものを、各会社毎もしくはその各地域の物流の取組み毎に整備が必要であると考えておりますので、その辺は私どもも今一度勉強させていただきたく考えております。

【熊本学園大シニア客員教授：坂本 正】

全体の制度設計で大枠を設計するのと、個別に、地域別とか、会社の需要と合わせてというのは、また別の話になるので、ぜひ事例を積み重ねることが必要であると思いますし、今日の会議はそういう意味で、全体の話と事例の話を組み合わせたことができたということで、今後の展望が出てきたのではないかと感じております。松野支局長の印象はどうですか。感想等あればお願いします。

【九州運輸局 熊本運輸支局 支局長：松野 完治】

今回、調整事業を2つする事になっておりますが、そういう意味ではやはり共通項が色々出てくるところもありますし、特に農水省さんが今日お越しいただいておりますが、熊本は農業県ということでございますので、説明を聞いていると先程イチゴの輸送で外気温の事やイチゴが互いにぶつかからないよう通気性を高めないといけないという話がありました。協議会全体というよりも、個人的にですが、イチゴはプラスチックのパックが段ボールに入っておりますが、それが荷崩れしないような面白いやり方というのはないかとか、サランラップを巻くという話がありましたが、メッシュのものを使用したり、そもそもそういったものを使わずに、個々の段ボールの箱を連結して横揺れ縦揺れに強くなるような面白い製品ができないか等、そういう話を聞きながら、野菜等の効率的な輸送の仕方も、物流システムだけではなくて個々のパレットと段ボールをもう少しうまく組み合わせながらコストも下げながら効率的な輸送が可能ではないか、そういう印象を持ってまいりましたので、今回いろいろ調査をして、農水省さんとは情報の共有をさせて頂き、それぞれの施策に生かせる部分もあると思いますので、この2つの事業についてはしっかり運輸局として取り組んで、また全国展開できるような知見を得たいと思っております。

【熊本学園大シニア客員教授：坂本 正】

ありがとうございます。全体の今までの流れのところの改善という話が、いろいろ効率的にするというだけではなくて、踏み込んでお互いの輸送する側、荷主さん、それから全体の流れの中で工夫する部分、今、松野支局長がいわれましたように、まずは改善等あればお互い詰めていったらできるのではないかとというそういう余地もできた協議会であったと思います。

それでは最後に会長の住永様のほうから、ご意見ございましたら短めをお願いします。

【公益社団法人熊本県トラック協会 会長：住永 豊武】

制限時間がきていますので、本当に今日は、ありがとうございます。

日之出紙器工業様、本当にありがとうございます。それから農水省さんのこういった具体的な提案というのを初めて書面で見させて頂いて、今日は非常に勉強になりました。

やはりパレット化の推進は重要です。この対応はよろしくをお願いします。

これは、農水省のほうで負担していただくと事が進むのではないかと思います。

それから本当にプラットフォームについても、やはりこれから私どもがしっかり取り組んでいかないといけない問題であると思います。

それから、予算の問題につきましては、今日も本当にありのままのお話をいただきましたので、非常にありがとうございます。やはり、お話の中で、配送を考慮した生産体制っていうのは言葉の一つありましたが、大変ありがたい話であり、更に一歩進めますと、やはり受注体制が少しでも売りたいことから、どうしてもぎりぎりまで受けようとしてしまいます。

段ボール協会は、やはり全般的には非常に認識が遅れていると思ひまして、梱包の整備は、先ほど所長が撤退したとの事でした。これは、そのような提案をしても聞く耳がないだけでなく、後々物流の面で非常に競争力が落ちてくるものと思います。やはり、日之出さんにおいてもその様に積極的に受け入れてやっていただいていることが勝ち残る作戦のためにも、今物流を考えていかないといけないという事も少しはあるものと思います。

また、今人手不足等の問題が協議会でも大きなテーマとなっていますが、それを解消するためにどうするかということで教育をしているわけです。こういう認識というのは、国交省をはじめ中央の行政機関は非常に認識が薄いと感じます。今回は、非常にやはり前に進んだ施策を打ち出していると思ひます。

さらに先般、経済同友会の中に、捻出のための物流の突破戦略というプロジェクトチームができて、90分程いろいろな話をしてきました。この経済同友会等は、書面上の問題意識が非常に的確にとらえています。ただ、お話をさせていただきましたところ現場の実情と合わない。現場の実情を聞いてよかったというのは非常に反響度が大きく、非常に進んでいます。物流の危機というのは、中央のほうは産業界にしても、非常に迷っておられると思ひますが、こういった点はやはり地方のほうで、非常に鈍感であると思ひます。

だから私どもはそういった地方の進めているところにしっかりついていって、いかに対処していくかということが非常に大事ではないかとの思いを持っています。

それから960時間の問題ですが、2024年に時間外労働が960時間になり、それまでは724時間をとらえているということです。そして時間外労働を960時間超えたら罰則を与えることとなります。一般の企業については、大企業は724時間で罰則がスタートしています。それが運転手には960時間です。これはもう2024年、960時間になって初めて罰則を科すということとなりますが、その後5年間、960時間を走るようになっていますが、760時間にすると書いていないですね。724時間を目指すとは書いていない。

大体960時間というのは過労死認定基準の時間数であって、もともとこういった働き方改革をする一つに、運転手に対しては過労死が多いことがあります。それも圧倒的に多い。心臓疾患、脳疾患等。これを防ぐために働き方改革をしないといけないといわれていますが、一方では960時間。

やはりこれは今960時間というのが決定しているから、これに向けて私どもも、960時間以上のところが32%ほどあるようですので、それをとりあえず5年間で960時間以内の労働にしていこうという運動をしています。

その後、やはり5年間で720時間になるようにする必要があると私どもが日頃から申し上げている運転手を誇りある職業にしようということには程遠い。これをやはり誇りある仕事になるよう

にしないと、この運転手不足というものは解消できない。いくら取り組んでも、今根本的に待遇改善の問題だけでは無く、人口減少という事もあります。もう絶対数はどんどん減少しますから、どの仕事もこれからは人が足りなくなる。間違いなく足りなくなる。その補填をどうするかということ、やはり今から考えないといけないの思いがありますが、そういったところも含めて、私どもも検討して、やはり私どもの使命である「物流を途絶えさせない」「経済に影響を与えない」そういった使命を果たすためには、そういった観点からもしっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

○その他

【事務局：九州運輸局 貨物課長 佐々木 庸敏】

・補足説明（以下の通り）

「中小企業向けのITツール活用ガイドブック」については、今話で出ているパレットのRFID対応だとか、トラック予約システム、こういったものの導入効果とかを取引事例をまとめたものでございます。ぜひ参考になると思いますので見ていただきたいなというものでございます。

それとアドバンス事業ですが、全国で10か所ということで、農産物であるのはこの熊本だけでございます。その他は加工食品だとか建築資材、紙パルプというようなのをアドバンス事業でやると。で、アドバンス事業は、関東と近畿でやる予定になっております。今年度のうちに、課題の解決に向けたこういう検討だとか検証を実施して、皆様にご報告ができるかと思っております。

今後の本協議会の取り組みとしましては、大体2月ぐらいに、今まで国土交通省がいろんな取り組みをしていますが、その検証をこの後おこなうということ聞いております。

中央での協議会が2月に行いますので、それを受けて3月中に、大変お忙しい曜日と思いますが、3月中に地方協議会を開催できたらなというふうに考えております。

今後はこの協議会にいろんな関係する行政機関、こういったいろんな関係する行政機関の方をメンバーに増やしていこうというような検討を行っていくということになっておりますので、またメンバーが多く増えてくるものと考えております。

皆様の今後とも貴重なご意見をいただきまして、非常にこの物流業界も危機状態にございますので、改善に向けた取り組みというのを前進させていきたいというふうに考えております。どうぞよろしく願いいたします。

【熊本労働局労働基準部長：本多 信一郎】

・閉会挨拶

【事務局：熊本運輸支局 横山 健太】

・閉会の言葉

（了）